

<全体分析>

試験時間

80 分

解答形式

マーク式 (26 問) のほかに、記述式の設問が 3 問 (大問 [I] ~ [III] に各 1 問) 出題されている。

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加) ※長文 3 題の総語数は 2,623 から 2,415 になった。

難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴

- ・2019~2022 年度に大問 [IV] で出題されてきた、大問 [I] ~ [III] の内容に共通してあてはまる選択肢を選ぶ大問横断型の出題はなくなっている。このため、大問数は 1 題減って大問 3 題の構成になっている。
- ・設問数は、2015 年に大きな変化があり 43 になってから、前年同様もしくは減少であったが、2023 年度は 2 つ増えて 29 となっている。設問によって「難易の差」が顕著であることから、「易しめ」のものを確実に得点にすることができるかがポイントになる (ちなみに、内容一致タイプの設問の選択肢は「短い順」に並べられていて、「長さ」のバラつきが大きいものもある)。
- ・2019 年度から継続して記述式の設問が出題されており、2023 年度は内容説明の問題が久しぶりに出題されている。
- ・客観式の設問は、同意表現選択、空所補充、内容説明、内容一致・不一致などが出題されている。一部の設問では、選択肢の表現に受験生にはあまりなじみのない難度の高い語(句)が含まれているが、それ以外の選択肢をきちんと読めれば正解を得ることができるので、初めて目にするような表現を見ても焦る必要はない (Q15 の 3 の wired for など)。逆に、見知った単語でも、受験生が一般的に認識しているものとは異なる意味で用いられているものを扱う設問もある。

その他トピックス

- ・記述式の設問は、試験会場での初見では「英文による設問の指示」を理解するのに時間がかかると思われるので、ここ 5 年の設問形式および指示文の内容に慣れておく必要がある。
- ・空所補充問題では、「連立型のもの」が、2019 年度以降少なくとも 1 問は出題されている。
- ・語句整序問題は、ここ 3 年は要約文を完成させるものだったが、2023 年度は文中の英文を完成させるものになっている。

＜大問分析＞

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
〔I〕	読解総合	「質問をためらう子どもの心理」 (927 words)	客観式は、空所補充（連立型を含む）、同意表現選択、内容不一致、内容一致。記述式は、本文中のある英文に空けられた 12 個の空所に適する単語を並べかえる形式。他の大問と比べると読みやすく、紛らわしい設問も少ない。なお、第2段落3行目の <u>peer's</u> は <u>peers'</u> とすべき。	やや易
〔II〕	読解総合	「人間の利他的行動の要因に関する考察」 (932 words)	客観式は、内容一致、同意表現選択、空所補充、内容説明、アクセント、内容不一致。記述式は、本文で用いられている a zero-sum game という語句について 30～40 字で説明する形式。本文、選択肢ともに語彙レベルが高く、選択肢の絞り込みにも苦勞するだろう。Q15、Q17、Q18 は、消去法で選択肢を絞り込んでいくとよい。なお、Q14 の指示文の <u>peoples'</u> は <u>people's</u> とすべき。	やや難
〔III〕	読解総合	「compassion という語の歴史的・宗教的背景と、現在の医療におけるその意味と課題」 (556 words)	客観式は、空所補充、要約文選択、内容説明、内容一致。記述式は、記述式解答用紙に記されている設問の具体的な内容が不明なため、解答は省略している。Q20 では、受験生が一般的に覚えている意味とは異なる意味で用いられている単語が問われており、消去法でも苦勞するだろう。なお、Q22 の指示文の <u>best accurately</u> は <u>best</u> あるいは <u>most accurately</u> とすべき。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

薬学部ということで、医療や病理に関するものをはじめ、自然科学系のテーマを扱った英文が出題されることが多く、日頃から難度の高めなものも織り交ぜ、数多くの英文を読みながら語彙力を充実させる必要がある。同義語選択や空所補充のほか、文の趣旨を選ぶ問題や内容一致問題が出題されるので、語彙力の拡充に加えて、文脈を手がかりにして単語や表現の意味を考える習慣をつけておくことが大切である。2019年度以来、記述式の問題も出題されているので、過去問を解くことで出題形式に習熟しておく必要がある。